



ぽれぽれの友

42

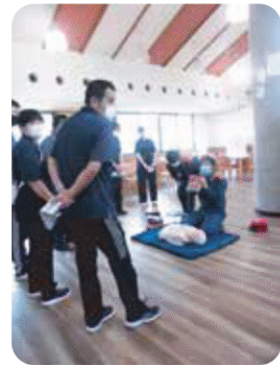
2022.01.07 発行



発行／社会福祉法人 恒和永千会 障害者支援施設ぽれぽれ
〒709-0523 和気郡和気町小坂 1273-7
TEL:0869-88-9777 FAX:0869-88-9778

委員会活動 (防災)

防災の活動の1つとして、年5回の避難訓練を実施しています。夜間想定や職員の少ない時間帯に合わせた訓練も計画実施し、利用者様と共に訓練の精度を高めるようにしています。また、今年度も消防職員によるAEDの使い方、心臓マッサージ等の救命の研修会を開きました。災害対策については、マニュアルを見直し、備蓄の管理や使用方法などの研修を行っています。ガス発電機を実際に使用し、どのような機材なのか、どこにあるのか、慌てず対応できるように再確認の訓練をしています。今後もいつ訪れるかわからないことに対して、慌てず、冷静に対処できることを目標に取り組んでいきます。
(防火管理責任者 徳田真治)



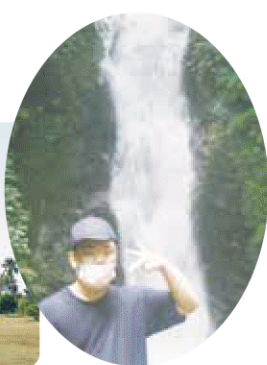
施設旅行に代わって

今年度は世の中の状況を考慮し、施設旅行に代わり、『移動動物園』というものを企画しました。渋川動物公園から動物たちがやって来て、ふれあいました。この企画は初めての試みで利用者様に楽しんでいただけるかどうか心配でしたが、幸いにも多くの利用者様が楽しまれて安堵しました。コロナ禍で生活に色々な制限がある中で、良い気分転換になったのではと思います。ぼれぼれで新しい楽しみ方の1つを見つけられたような気がします。
(生活支援員 大原海音)



分場

分場では余暇活動で外出をしています。コロナ禍ということもあり対策をしながらのこととなります。三密を避けるため、公園に行くことが多くなりました。広々とした中でお弁当を食べるのはとても気持ちの良いものです。あまり知られていない、良い公園が岡山にはたくさんあることがわかりました。春から夏にかけては、「三ツ山スポーツ公園」、「みなとの見える丘公園(日生)」「男女山(おとめやま)公園」等に行きました。広々とした中でお弁当を食べ、散歩をするのはとても気持ちの良いものです。夏には滝も見に行きました。
(生活支援員 永田 晃)



栄 養 通 信

食事の提供にあたり、食中毒や感染症対策と常に衛生管理には注意を払ってきましたが、新型コロナウイルス感染症の発生後、調理現場では、これまで以上の緊張感を持って頑張っています。
入所者50名は、年齢層も20代前半から70代まで幅が広がっており、半数近くが特別食(療養食4名、嚥下調整食など17名)です。障害特性や高齢化と理由は様々ですが、通常食が難しくなっている方が多く、年齢とは関係なく介助を必要とされている方も増えています。『食べることは生きること』という言葉があります。人間は生きるために食べ、食べるために生きています。食事を楽しみにしてくださっている方が多く、献立もサイクルメニューではなく常に更新しています。正直に言うと、安全性を優先させた食形態は、見た目には美味しいとはあまり言えないこともあります。しかし、一人ひとりが自分らしく食べることができ一助になれるよう、今日もご飯が美味しかったなと思っただけのよう願っています。
(管理栄養士 吉崎郁子)

新年を迎えて

理事長 梶谷勝彦

明けましておめでとうございます。

去年はコロナ禍で様々な活動が制限され、諸行事も中止せざるを得ない厳しい一年でした。感染予防を徹底し、職員一同の努力により、何とか落ちつきそうな状況です。寅年は予見にある様に、新しいことに挑戦してゆく年でありたいと思います。

ぼればれは開設して本年度で20年目となります。運営面においては順調に推移しています。しかしながら10年先を見据えた方向を描いてゆく必要があります。特に利用者の高齢化に伴い様々な事柄を整理し、安心して暮らせる環境を整えてゆかねばなりません。

最後に地域の皆様、家族会の皆様、そして理事、評議員の皆様、よろしくお願い申し上げます。職員の皆様、がんばってゆきましょう。

新年のご挨拶

管理者 山本雅司

明けましておめでとうございます。

昨年、一昨年と新型コロナウイルスの感染が広がりを見せ、色々な場面において制約がかかり、施設でも今までの生活に少なからず影響が出ました。そのような状況の中、感染予防対策を講じながら、新たな生活スタイルを模索していき、今ではそれが少しずつ浸透してきているところであります。一日も早く、利用者、保護者の方が安心の持てる生活に戻ることを願うばかりです。

さて、今年施設が開所をしまして、20年という節目を迎える年になります。思えば、障害者福祉サービスにおいて、大きな移り変わりであった措置制度から支援費契約制度へと移行する年度に、ここ和気町小坂の地に施設も誕生いたしました。その歩みにおいて、約140名の方がこの施設を利用されてきたことに、20年という重みを感じているところです。また、ここに至るまで保護者の皆様はもちろん、地域、法人役員の方々におきまして、多大なるご協力・ご尽力をいただいたことに対し感謝を申し上げます。

新年を迎え、「更なる向上」という思いを込め、これからも選ばれる施設であり続けたいと思います。

本年も一層のご協力、ご支援をお願い申し上げます。

ご挨拶

ぼればれ家族会 会長 山本敏子

朝夕冷え込む季節となりました。例年行われていた家族会の事業もコロナ禍の中で中止となりました。ぼればれでは、感染対策をして受診も含め可能な限りの外出やクレープ屋さんを呼んでくれるなどと利用者を楽しませていただきました。喜んで食べている様子はお便りで知らせて頂きました。

利用者はコロナ禍のために今まで以上にストレスもあり、スタッフを困らせている事と思いますが、管理者はじめスタッフの皆様の心配りや努力により、楽しんで生活できている事を大変ありがたく思い、感謝致します。

一日も早くコロナが終息する事を願っています。

ともに支えあい、 ともに輝く施設の実現へ

評議員 矢野周子

新型コロナウイルスが、猛威を振るって約2年が経とうとしています。今、予防接種の推進とともに少しずつ落ち着いてきた感じはありますが、まだまだ予断は許さず、検温やマスク着用などの注意喚起を図りながら、様々なイベントなどが少しずつ開催されている状況であります。

施設内では、職員さんはもとより、利用者さまに対しても、より徹底した危機管理体制を図っているところであります。今後も、危機管理体制の強化を図り、安心・安全に、利用者さまが、健やかに過ごしていける施設運営に務めていく覚悟であります。

利用者の皆さま、ご家族の皆さまが、これまで以上に、ぼればれで良かったと思っただけの施設に、職員の方々と協力体制をもって取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

職員の抱負

ぼればれに入職してから10年が経ちました。

きっかけは、3人姉弟の真ん中の子供に障害があることでした。この10年の間、親として施設職員として心の葛藤が有り続けています。そうしたストレスを抱えながらも楽しく支援員の仕事をさせてもらっています。

今もなお大切にしている事ですが、家族の思い職員の思いどちらも分かる立場にいます。家族、利用者、職員、皆に寄り添えるようにこれからも頑張りたいと思っています。

ぼればれでお会いする機会がありましたら、いつでも気軽に声をおかけください。これからもよろしくお願いいたします。
(生活支援員 永井健太)



パラリンピックの聖火フェスティバルに参加させて頂きました。町内から4つの福祉事業所の代表が集まりました。各事業所で起こした火をランタンで運び、1つのろうそくにその火を移して送り出す、というものでした。こういった行事の参加は初めてでとても緊張していましたが、当施設の利用者様や職員はもちろんの事、他施設の方々が楽しんでいる姿を見て、私もその一員として式に参加出来たとことをうれしく思いました。

(生活支援員 浜野雄大)



理事・評議員会ご報告

病気療養中の監事 片山保男様がお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。後任として、幸坂隆久様に就任していただく運びとなりました。よろしくお願ひ申し上げます。

新任職員の紹介



7月1日採用
三宅一史

以前お世話になっていた三宅です。7月から再び職員として、頑張っています。利用者の方々やご家族の方々にまたお会いできてとても嬉しいです。改めてよろしくお願ひいたします。

寄付お礼 (順不同) 令和3年6月~令和3年11月

- 奥山 進 様 ○西村 茂 様 ○原 景子 様
- 益本 隆雄 様 ○前原 勝治 様 ○小橋 弘正 様
- 松本 笑子 様 ○梶谷 勝彦 様

お心遣いありがとうございました

退職職員

杉山 光希 香山 友路
お世話になりました。

行事予定 (令和4年3月まで)

- 1月25・26日 健康診断
- 2月18日 第三者委員会
- 2月23日 家族会奉仕活動
- 3月19日 理事会
- 3月 春の寿司

新型コロナウイルス感染症の状況によって、行事の見直しや変更等があり得ますのでご了承ください。

編集後記

コロナ禍でも安全にできる活動を考えて取り組んで参りました。利用者様の元気な姿が「with コロナ」そして「コロナに負けない」として伝われば幸いと存じます。作成にあたり、ご協力くださった皆様に、心より感謝申し上げます。(サービス管理責任者 土山英彦)